

館長だより 第5号（2025年1月）

本年もよろしくご来館・ご来園ください

新年あけましておめでとうございます。

紀伊風土記の丘は1月4日（土）から開館しております。4日は年頭の無料入館日にあたり、天候も安定していたこともあってか、多くの方々にご来館いただきました。本年も多くの方々に紀伊風土記の丘をご利用いただくべく、職員ともども努力を積み上げていきたいと思っております。

昨年のことになりますが、12月初旬に終了した秋の特別展「数多の古墳を築く 一群集墳からよむ古墳時代」は10月初旬からの56日間の開催で4200人を超える皆様にご来場いただきました。県内外の自治体や大学などのご協力を得て多数の資料を紹介することができ、群集墳という古墳群の特徴を包括的にとらえた、充実した展示ができたのではないかと自負しております。

12月15日（日）には、「チャレンジ！ジュニア学芸員」の表彰式と研究発表会が開かれました。この企画は、小中学生を対象に、和歌山県内の歴史やむかしの暮らしについて研究したことを形にして応募してもらうもので、個人研究部門では小学生5人、中学生3人、団体研究部門では中学生3団体の応募がありました。紀伊風土記の丘では夏休みの初めに「ジュニア学芸員養成講座」をひらいて、本館の展示物を利用しながら学芸員の仕事の一端に触れてもらう企画を実施していますが、応募者の中にはその企画の参加経験者もいて、とても嬉しく感じました。応募作品はそれぞれに特徴があり、また学年も異なるので、一律に順位を決めることは難しかったのですが、総合的に評価して小学生・中学生ごとに各部門で最優秀賞・優秀賞・奨励賞に区分し、表彰式を行いました。

表彰式後は、参加者それぞれが自分の研究をプレゼンテーションする研究報告会にうつり、そこでは考古学の佐古和枝先生（関西外国語大学教授）に各人の研究発表に一言ずつコメントをいただきました。それぞれの研究は1月12日（日）までロビーで展示していますので、ご覧いただきたく存じます。



企画展がはじまります

1月18日(土)から冬期企画展「たがやす」を開催いたします(2月24日(月)まで)。近世以降の和歌山平野では、夏場は水田で稲作をし、収穫後はそこを畠にきりかえて麦や野菜を栽培する二毛作が行われましたが、そこで力を発揮したのが牛たちです。春先の田おこしから田植え前の田ならし、稲刈り後の再度の土おこしや畝立てなど、和歌山平野の農業は牛とともにありました。牛耕というと古いイメージをもたれるかもしれませんが、明治以降は工業の近代化とともに牛耕用の農具も次第に開発され、それが農業のあり方を少しずつ変えていきます。企画展では、本館蔵の農具を時代を追って展示し、かつての二毛作の様子と農家の暮らしを紹介していきます。ぜひご来館ください(2月9日(日)には学芸員による展示講座も開催いたします)。

1月の企画を紹介します

企画展のほかにも、1月には幾つもの講座やイベントを予定していますので、ご紹介いたします。(いずれも当館ホームページに掲載しておりますので、ご確認ください)

①1月12日(日) 13:30～ 連続講座「高野③」

「丹生都比売神社の祭神」(和歌山地方史研究会の寺西貞弘さんにご講演いただきます)

②1月19日(日) 13:30～ 学芸員講座「岩橋千塚⑥」

「岩橋古墳群の整備」(県教育庁の藤井幸司さんと当館の田中元浩学芸員が、大日山35号墳と天王塚古墳の調査と整備についてお話しします)

③1月26日(日) 13:30～ 古墳ガイドツアー

(紀伊風土記の丘ボランティアの皆さんが、前山地区の岩橋型石室をご案内します)

以上のほか、「ハニワづくり」「まが玉づくり」も1～3月に毎月2回実施しています。ただ、冬季のため屋内の作業室を利用する関係上、人数枠が少なくなっておりますので、事前に当館のホームページで受付の状況をご確認くださいようお願いいたします。

また、当館には多数のボランティアの方々が登録しておられ、館内展示の案内・解説や、園内の古墳群の案内、多数の体験企画の実施にご協力いただいています。こうした活動にご興味のある方々を対象に、当館では1月～3月に計4回「ボランティア養成講座」を実施していますので、ご参加をお待ちしています(今年度は、第1回は1月25日(土)に実施します)。

2月2日(日)午後には、現ボランティアの皆さんの研究発表会(テーマは「古墳と植物」)も予定されています。